

1) 接地極施工の留意点

- a. 電極と土壌とがよくなじむように施工する。
- b. 大電流が流れたとき溶断しないよう電線の太さに注意する。
- c. 接地極と接地線の接続は堅固に
- d. 電流が流れたとき地表面に現

するように、深く埋設する。

2) 接地極の種類と形状

接地極には、表 - 1 に示すよう( )がある。金属板はほとんど銅( )パイプ、ステンレスパイプなどが( )するものを用いる。

加工(カウンタポイズ法、メッシュ法な( )属棒には、銅棒、鋼棒、銅覆鋼棒、鋼パ( )に寸法が示されているので、これを満足

表 - 1 接地極の種類と形

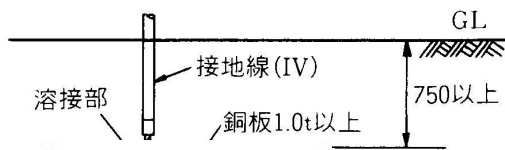
材 質	状 (大きさ)
鋼 板	面積 900cm <sup>2</sup> 以上 (片面)
銅棒、銅溶覆銅棒	径 0.9m 以上
鉄管 (亜鉛めっきガス鉄管、厚鋼電線管)	径 0.9m 以上
鉄棒 (亜鉛めっき)	径 0.9m 以上
銅覆鋼板	面積 250cm <sup>2</sup> 以上 (片面)
炭素被覆銅棒 (鋼心)	径 0.9m 以上

3) 接地極施工上の注意点

- a. A 種 (避雷器用を除く) B 種の接地工事を行う。
- b. 埋設又は打込み接地極は、所( )ス、酸等に腐食されるおそれ( ) - 2)。
- c. 接地極と接地線との接続は、( )ろう付けは、銀ろうその他に( )。
- d. 所定の接地抵抗値が得にくい( )ふ設方法などについて検討す( )。
- e. 接地極の埋設位置が容易にわかる耐久性のある標識を設ける。
- f. 接地線に人が触れるおそれがある場合の A 種及び B 種接地工事の施工方法については、図 - 4 のとおりに施工する。(電技解釈第 20 条第 3 項)

器の各接地は、原則として種類ごとに個別( )を用い、水気のあるところで、かつ、ガ( )75cm 以上の深さに埋設する (図 - 1、図( )  
 その他の確実な方法による。  
 けによらない。(図 - 3)  
 値の測定を行うとともに、接地極の構造、  
 接地抵抗低減剤の併用も考慮する。

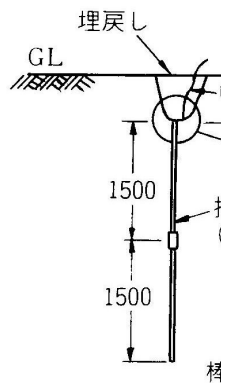
http://gemba-know-how.com



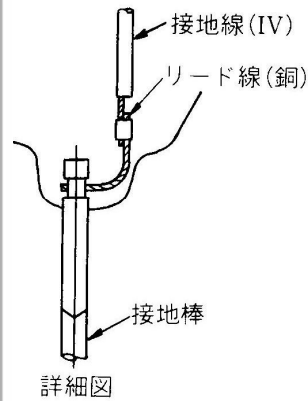
バインド線

図

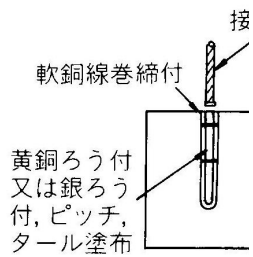
図の施工



図



図の施工



三手型(銅)端子

ろう付  
ピッチ、  
塗布

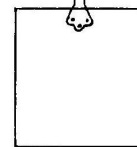
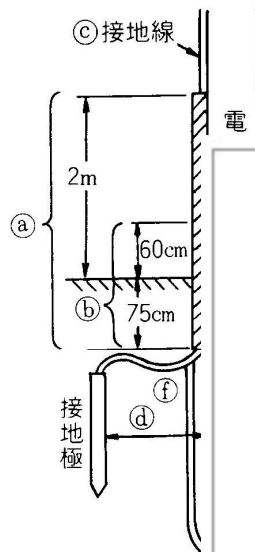


図 - 3 銅板のリード線の取り付け

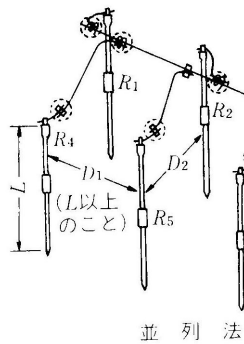


①の部分の接地線を合成樹脂管などで覆う。

也線には絶縁電線（0，キャブタイヤケーブル）を使用する。  
 主等に沿って施設する  
 同じ電線を使用する。  
 主等に沿って施設する  
 n以上離す。  
 主の底面下に施設する  
 底面から30cm以上とす

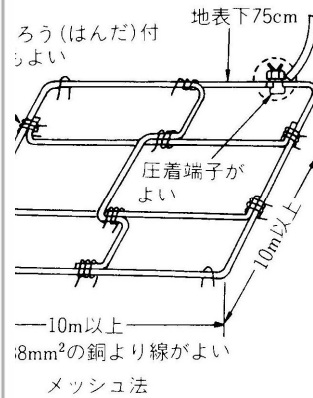
の場合，接地線は②と使用する。

図 - 4 人が触



並列法

における接地工事方法



例

<http://gemba-know-how.com>